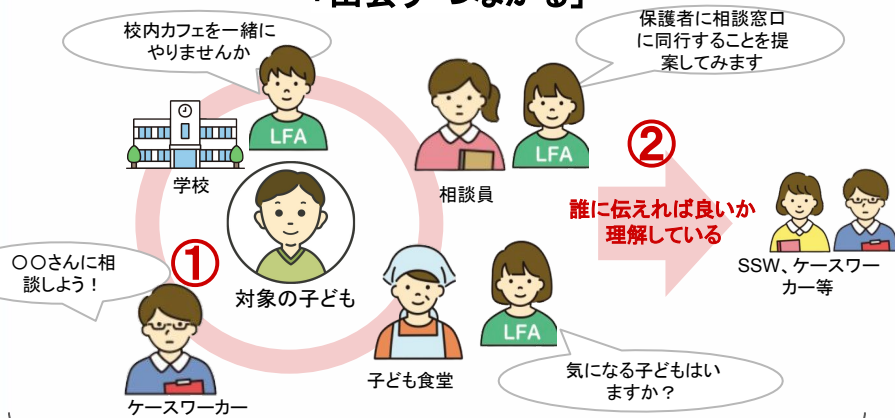




### 「地域協働型子ども包括支援」の実現イメージ

#### 子どもと出会う・つながる

子どもと適切なタイミングで(早期に)  
「出会う・つながる」



#### ① 困難な状態に置かれている子どもに早期に気づく

(例)

- 行政や学校、地域で子どもと関わる機関に自団体の取り組みを日頃から紹介する
- 子ども自身が困る前から子どもと出会う機会をつくる(ユースセンター、学校内の居場所カフェ等)
- SNS相談などオンライン上で出会える仕組みをつくる

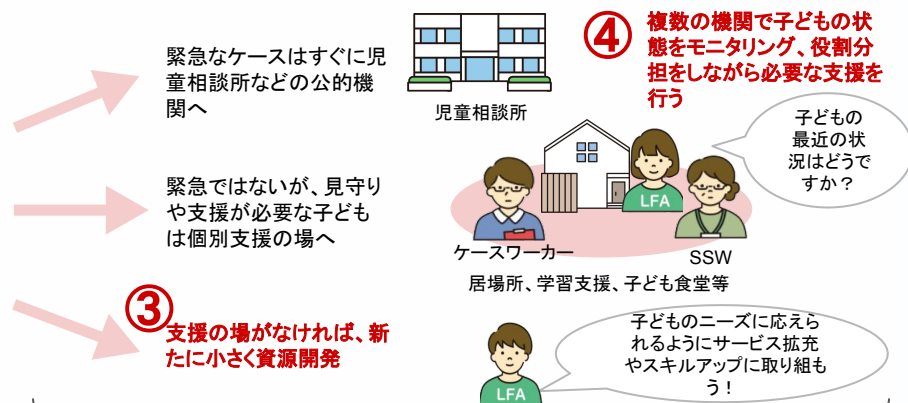
#### ② 困難な状態に置かれている子どもを誰に繋げれば良いのかわかる

(例)

- 「ちょっと気になる」という状態でも相談してもらえるように、定期的に地域の関係機関にあいさつ回り
- 支援者ネットワークを作り、情報交換する機会をひらく
- 繋げるべきケースであれば、個人情報に気をつけてどういうルートで誰に言うのがいいのかを紹介する

#### 子どもを支える

子どもを適切な内容と質で  
「支える」



#### ③ 子どもの状況やニーズに沿った支援を開発する

(例)

- 子どものニーズを確認し、新たに必要支援を小さく始める。または、既存のサービス内容を見直す
- 新たに必要支援を提供できるよう、支援者自身がスキルアップに取り組む

#### ④ 多機関で重層的に見守り、子どもの環境やニーズの変化があっても支え続ける

(例)

- 子どものニーズに沿って支援計画を作成し定期的に支援内容の見直しを行う
- 複数の機関で子どもの状態や必要支援について話し合う場を設定する
- 行政や他の専門機関と家庭全体の支援体制について話し合う